

予備試験合格者が語る！短答翌日から論文試験までの過ごし方

担当 辰巳法律研究所専任講師 弁護士 松永健一講師

MEMO

I 短答後の勉強方法(約 50 日間の過ごし方)

- ① 法科大学院生の場合
- ・授業を大切にす。
 - 予備試験終了直後に期末試験を控えている法科大学院も多い。
 - 授業で扱った判例や学説をその日のうちに理解する。
 - さらに、その論点が出たときにどのように書くかもまとめておく。
 - 予備試験論文試験合格の力になると同時に、期末試験でも良い成績を狙うことが可能になる。
 - ・答案を書く練習をする。
 - 合格者の答案は、ボリュームがあり、さらにバランスがよい。
 - 合格答案を読み、イメージを掴む。
 - そのうえで、予備校の答練を用いて、時間制限のある中で書ききる訓練を行う。
 - ・過去問の検討を行う。
 - 個人的に優先順位は、
 - 1 予備試験過去問
 - 2 いわゆる新司法試験過去問（もともと、科目による。）
 - (3 平成年代の旧司法試験過去問)
 - (4 演習書・・・個人的にはここまでできる余裕はないと思う。)
- ② 法科大学院生以外の場合
- ・答案を書く練習をする。
 - ・過去問の検討を行う。
 - ・法科大学院生との間で差がある部分を埋める。
 - 判例の射程の違い
 - 法律実務基礎科目

※基本書は、あまり使わなかったが、1つお勧めするなら、リーガルクエストが全科目を通して良いと思う。特に、会社法と刑事訴訟法は良くまとまっている。

II 各科目の学習

1 憲法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ◎
→原告の主張，被告の主張，私見の書き方を学ぶ。
→平成30年新司法試験の傾向が変化したことをどう評価するか？

2 行政法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ○
→傾向的には使いにくい。もともと，訴訟選択，処分性や原告適格などの基本論点の書き方は学ぶべき
- ・予備校の答練の問題

3 民法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ○
→傾向的には使いにくい。
新司法試験の民法は難問が多い。他方，予備試験の民法はオーソドックスなものが多い。
- ・旧司法試験の過去問 ○

4 商法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ◎
→予備試験で問われた問題が新司法試験で問われることが多い。
逆もしかり。
- ・判例の学習 ◎
→判例の事案そのままのことも多い。

5 民訴

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 △
→傾向的には使いにくい。新司法試験の民訴は，特に難問が多い。
- ・判例の学習 ○
→百選など，事例を意識した学習を行う。

6 刑法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ◎
- ・旧司法試験の過去問 ○
→規範定立のみでなく，評価される事実の拾い方を学ぶ。
合格答案や，最高裁判例解説がお勧め。

7 刑訴

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ◎
- ・旧司法試験の過去問 ○

→刑法と同じく、規範定立のみでなく、評価される事実の拾い方を学ぶ。合格答案や、最高裁判例解説がお勧め。

時間のない人には、「判例講義 刑事訴訟法」（渡辺咲子著）（不磨書房）がよくまとまっていてよいと思う。

8 実務基礎科目

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・司法研修所で使う教材で市販されているもの ◎
民事：「紛争類型別の要件事実」「新問題研究 要件事実」
刑事：「プラクティス刑事裁判」

→法科大学院生（特に、最終学年）と差が付きやすい科目である。
対策をしっかりと立てる。

9 一般教養

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・個人的にはあまり深入りしない方がよいと思う。過去問だけでも7問あるので、どのように書けばよいかを意識する。

Ⅲ 本試験に向けて

- ① 合格答案のイメージをつかむ。
- ② いわゆる基本論点をしっかりと理解し，書けるようにする。
- ③ 過去問の検討
- ④ 設問のバランスを考えて書ききる訓練をする。
(予備校答練の利用)